

大名みえ子です



「柏崎刈羽原発の再稼働を許さない」 米山隆一新潟県知事の誕生



開票結果が出たあと米山さんは、
「原発再稼働ストップ、TPPから新潟の農業を守るなど、選挙中に掲げた公約実現のために、みなさんの力を借りながら全力で頑張る」と決意を述べられたそうです。



再稼働を絶対許さない県民の意思が示された選挙結果といえます。この勝利を全国に広げたいですね！

毎年開かれる「9.30を忘れない県民集会」。

今年は、9月24日に開かれました。上記写真は、会場に飾られた実行委員の手で描かれた絵手紙タペストリー。

放射性廃棄物L3の処分計画について、茨城県に要請

19日、県内21の住民団体は、連名で、「L3放射性廃棄物『素掘り埋設』計画を認めないことを求める要請書」を、茨城県に提出しました。

要請事項は、1. レベル3放射性廃棄物の素掘り埋設計画は、長期にわたって膨大な放射性物質の環境への流出があり、生態系を汚染し、将来にわたって住民が安全に暮らす権利を脅かします。よって、素掘り埋設計画を認めないこと。 2. 日本原子力発電株式会社に対して、L3廃棄物を遮断型保管施設での管理へ計画を変更し、原子力規制委員会へ申請し直すよう指導すること。

〈県の回答をかいつまんでご報告します〉

「安全性の確保が大前提」という言葉は、何度も繰り返していました。

「私どもとしては、この計画については、安全性の確保が大前提です。今回ご要請いただいた放射性廃棄物中の放射性物質の周辺環境への影響についても、原子力安全対策委員会において独自に検証を進めたい。

周辺住民の理解あつての計画実施と認識していますので、昨年7月16日に新增設計画書の提出があつた際にも私どもから口頭で日本原電に、周辺住民にしっかりと説明会を開催するよう強く要請しました。

この計画については、事前に周辺公衆への影響評価をすることになっていきますので、基準値が設定されています。国の考え方は、全くゼロということはないという前提です。我々もそう認識しています。

そうは言いましても地元の自治体として、周辺住民の方々が不安をお持ちであれば、それに応えていくというのは我々県行政の役割です。国の安全審査の結果を待って我々動くのではなくしてですね、そこは並行的に……。さらに追加的な措置が必要だとの認識があれば、規制庁を待たずして、我々から必要な対応について求めていくことになると思っています。

法律の基準を守るだけじゃなくて、どこまで合理的に事業者がより安全側に立ってとりくむ姿勢をもっているのか、そういったところもきちんと我々が見ていく必要があると思っています。

右の写真は、8月31日の規制委員会への要請時

